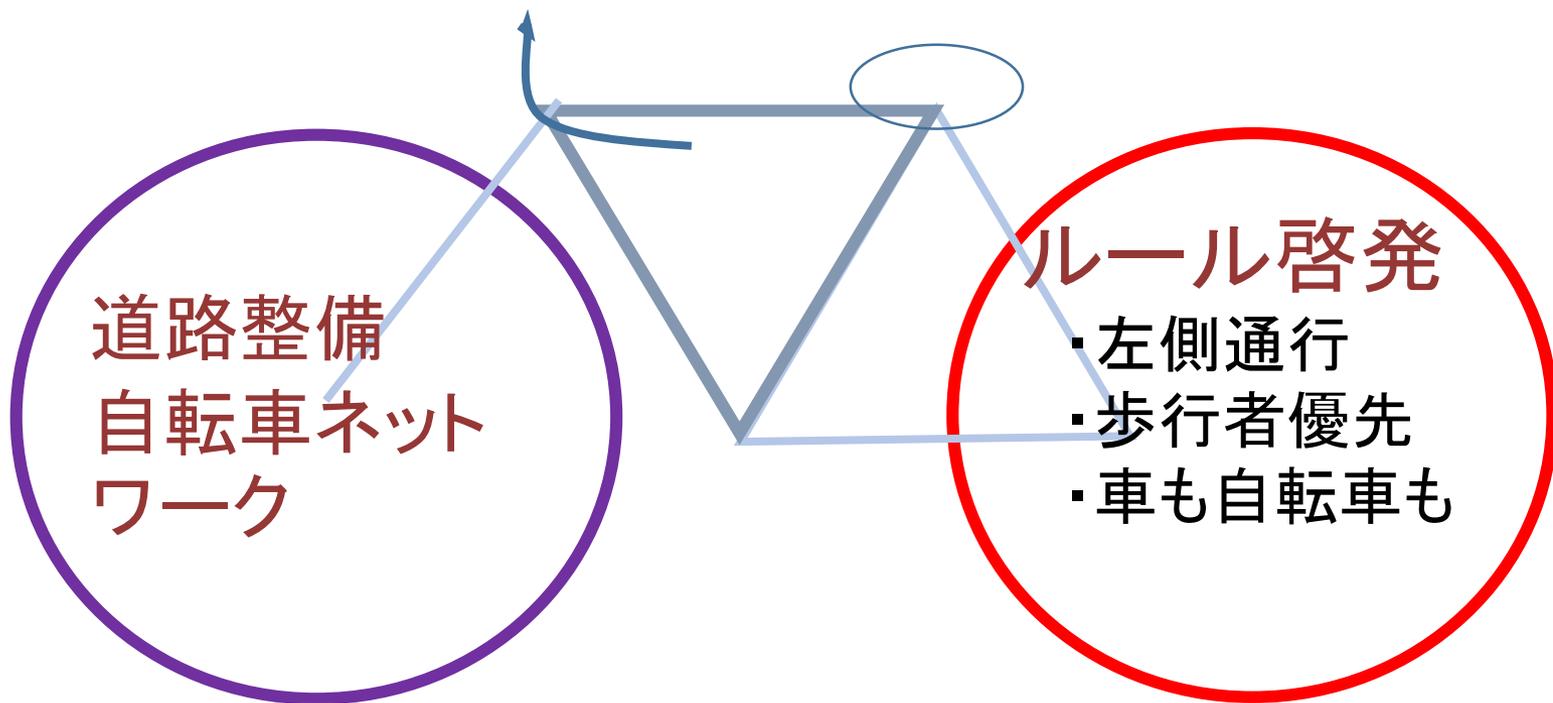
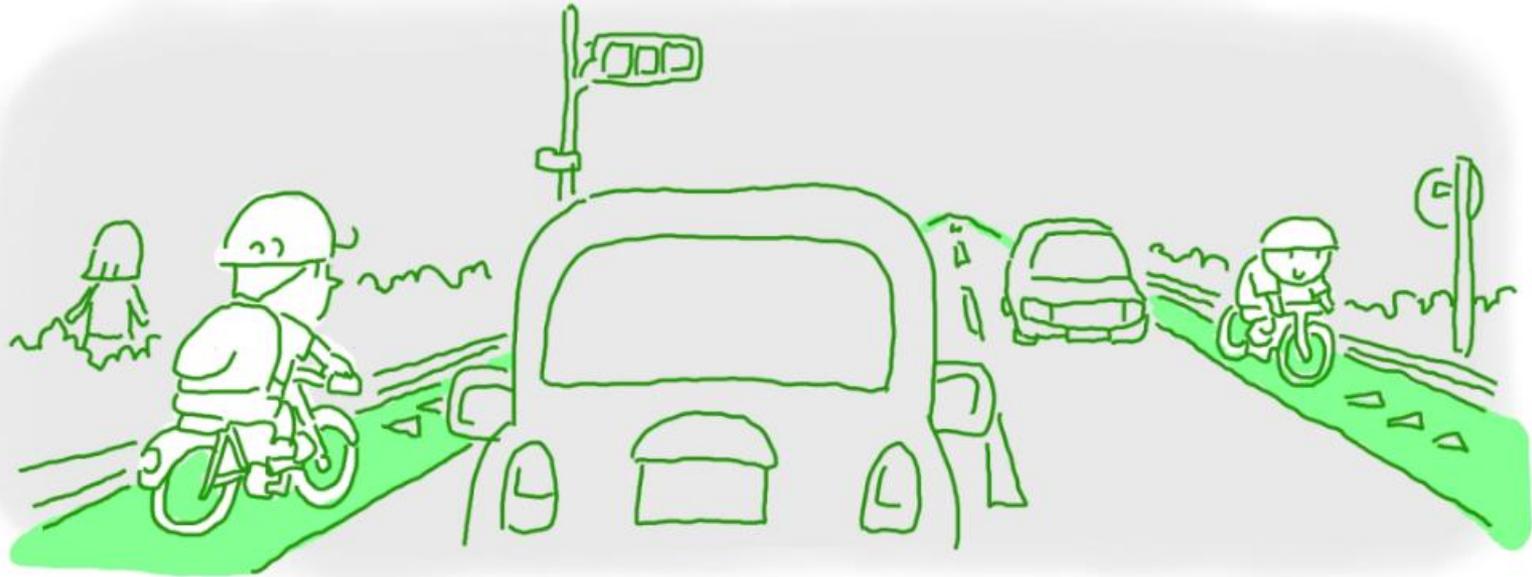


うべ交通まちづくり市民会議（うべこまち） （宇部市）

生徒と住民参加による校区通学路の自転車デジタルマップづくりとルール啓発の取り組み





うべこまちは、
自転車専用レーンの整備を、行政に要望します。

- うべこまち： 2010年設立
- 宇部地域の交通環境の改善に向け、市民の立場で自らの行動変革を促す活動を実行することにより、
- 人にやさしく、車に頼りすぎない持続可能な交通を目指す
- エコな自転車交通の環境改善
- 高校生や中学生などの意見を集め、行政にはたらきかけ、道路の改善・ルール啓発の両面から取り組み

宇部市立西岐波中学校・自転車環境

- 自転車通学路の危険個所と交通ルールの基本を知り、中学生が安心・安全に通学
- 郊外立地、交通量の多い国道190号線が通り、丘陵地に狭い街路
- 生徒数420名
 - 自転車通学率：55%
 - 通学・部活で自転車利用：約80%



第1回：通学路点検調査

- 2023年7月27日：4班で通学路点検、写真撮影
- 参加：生徒14名、教諭5名、うべこまちスタッフ5名、宇部市道路整備課1名、山口県警2名
- 通学路4ルート：狭い坂道、国道沿い、住宅地、歩道無しの路側帯。自転車を押し歩きまたは乗車して、自転車通行方法、危険箇所、注意点など話し合い、写真を撮影



第2回：マップ作り

- 2023年8月2日
- 図書室に地図を広げ、
- 調査ルートに沿って危険箇所、注意点をマーク
- 写真を貼って、自転車通学路危険マップを手作り
- 交差点模型のT字路で、自転車と車の出会い頭衝突危険と、左側通行の大切さ指導。



自転車通学路の危険箇所調査

うべこまちと西岐波中がワークショップ



グループごとに話し合う参加者 (西岐波中で)

文化祭で結果揭示、啓発へ

うべ交通まちづへの市民会議(通称・うべこまち、村上ひとみ会長)は27日、西岐波中と共同で自転車通学に関するワークショップを実施した。うべこまちスタッフと生徒12人、教員、警察官らが参加。通学路を自転車で走り、危険箇所を点検して回った。

同中学校区には交通量の多い国道190号が通っており、丘陵地には狭い路地も多い。自転車通学率は55%と市内12校の中で常盤中に次いで高く、部活で使用する生徒を含めると77%。うべこまちでは、正しい交通ルールを学んで安全意識を高め、昨年から、中学生を対象にしたワークショップを開いている。

参加者は、岡の辻や江頭など四つのルートに分かれて路上調査。急な坂道や小路から出てくる自転車の見え方などを検証しながら、危険ポイントの写真を撮って情報を収集した。

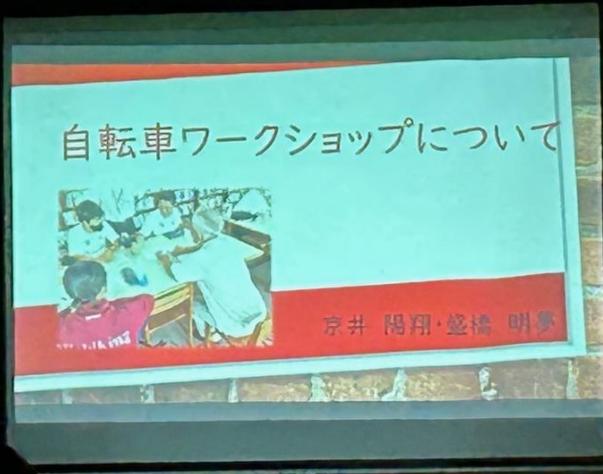
最後は全員が学校に集合して情報を共有。村松や吉田地域を巡った竹下和仁君(3年)は「歩道も無く、狭い道が多いことが分かった。見通しの悪い所では減速して回るをよく見るなど、しっかりとルールを守って事故のないように気を付けた」と話した。

8月2日にも同様のワークショップを開催。調査結果は同校文化祭で揭示し、広く生徒に啓発する予定。

(河内)

地元紙発信

文化祭で発表



- WSの成果を活かし、自転車ハザードマップを掲示、生徒に知らせる

交通ハザードマップ

Bルート: 江頭 常盤ふれあいセンター ~ 西岐波中学校 3.5 km

Dルート: 村松 コミュニティ広場 ~ 西岐波中学校 2.7 km

活動の効果と課題

◆ 実施に伴う効果

- 参加生徒は、今回の自転車通学路点検ワークショップの成果を活かし、自転車ハザードマップを仕上げ、中学校の文化祭で成果発表、掲示
- 市役所で道路整備と自転車ネットワーク計画担当の職員がWSに参加し、自転車を利用する生徒の率直な声、要望を聞く意見交換
- 警察官が通学路点検とワークショップに参加し、生徒にとって、よい学びの機会。

◆ 今後の課題

- 宇部市の自転車ネットワーク計画は市の中心市街地に留まっているが、郊外部の学校でも自転車通学は多い。
- JR宇部線や山陽本線の駅も立地する、厚南地域の学校と協議して、自転車ワークショップを発展していきたい。
- 自転車レーンや車道混在の自転車ナビマークの整備を拡げ、人と環境にやさしい、子どもも大人も自転車が安全に利用しやすい道路交通環境を！